

上州ひと交差点

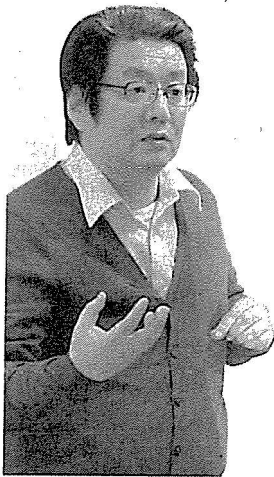
外国人医療の充実へ奮闘

群馬大学医学部付属病院の研究員。外国人患者が安心して医療を受けられる環境づくりに、人材育成と先端技術の両面から挑む。

今年度、群馬大の「医療通訳ボランティア育成講座入門編」の講師を務めた。患者と医師、通訳者が登壇するロールプレイングでは、横浜市国際交流協会のシナリオ「通訳失敗物語」を紹介。医師が発した「検査」という日本語を外国人患者が「oance r(がん)」と勘違いする場面などを、受講者同士がやり

医療通訳講座の講師を務める群大病院研究員

滝沢清美さん (55)



とりした。計40時間の講座を14人が修了。「活躍の一助になれば」と期待を込める。一方で、「医療通訳はプロであるべきだ」が持論。「善意の外国人支援というイメージ

シが強いが、医療スタッフの一員として活動する方が存在感が増すし、自活できれば優秀な人材が集まる」。来年度は電話やパソコン、タブレット端末を利用した「遠隔医療通訳講座」も担当し、修了者には日本遠隔医療学会の公認修了証を出す予定だ。「雇う

側の医療機関の安心感につながるでしょう」

システムエンジニアだった知識と経験を生かし、29カ国語の多言語問診票アプリを開発済み。現在は日本語ができない外国人や耳の不自由な人のための緊急通報アプリを手がける。母語でスマートフォンを操作すると日本語の音声に変換されて110番や119番のセンターに「SOS」が届き、居場所もGPSで伝わる仕組みだ。2020年東京五輪に向け、外国人観光客の増加は間違いない。「ニーズはある。命を救うこのアプリを群馬モデルとして世界に発信したい」(馬場由美子)

朝日

28日